

マタイの福音書 第7章 16節

「あなたがたは、実によって彼らを見分けることができます。ぶどうは、いばらからは取れないし、いちじくは、あざみから取れるわけがないでしょう。」

夏の終わり、秋口になりベランダの薔薇は続いて咲き、花香を漂わせている。季節の移り変わりのなかで、枝にのびる葉は緑の色が濃い。この時期はのびた枝の剪定が行われるようである。生きいきとしている枝を容赦なく切るのは惜しい気がする。しかし、新しい枝や花が勢いよく育つためには必要なことであるらしい。枝ばかりか、咲き誇った花さえ切り取られる始末だ。身を捨てて明日の華やかさに備える。

剪定後、早いものは枝をのばし、新しい葉をつけ、さらには花芽が生まれ始める。薔薇の種類にもよるだろうが、その生命力には驚かされ、また花を期待する。

当たり前のことだが、剪定されても薔薇は薔薇の花を咲かせ続ける。他の花を咲かせることはない。根から枝をのばし、葉を着け、咲かすべき花を枝の先端に見事に咲かす。あるべき姿をあるように、そのまま当然のごとく、期待を裏切らず咲かす。それにしても、思いがけない生き方をするのは花を愛でる人間だ。